



日本聖書神学校 神学基礎講座

2025 年度 前期・通年講座のご案内

〒 161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16
☎ 03-3951-1102 FAX03-3951-3044
Email: kyomu@jbts.ac.jp

受講資格： すべての教会信徒に開かれています（正規の神学校のカリキュラムの一部を開放するものです。正科生・聴講生の受講者が少数の場合、開講しないことがありますことご了承ください。）。
※教職者の方はご遠慮ください。

定 員： 若干名（定員になり次第締め切ります）

申込〆切： 2025 年 3 月 24 日（月）

申込方法： 受講申込書に必要事項を書き込み、下記宛先まで郵送・FAX・Email にて送付してください。神学基礎講座ホームページのフォームからお申し込みいただけます。

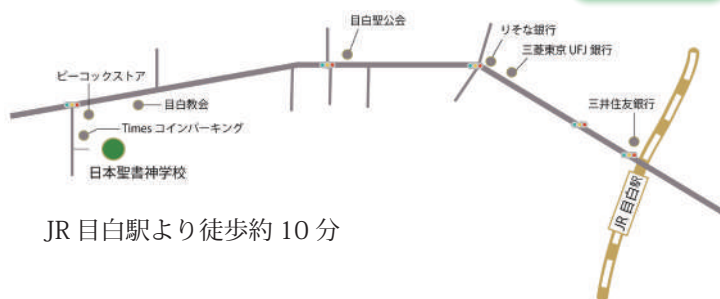
受講料： 1 科目 15,000 円（但し通年科目（ギリシア語、ヘブル語）は 30,000 円（前期・後期の分納可。））
※お申し込みいただいた後、振込用紙をお送りいたします。

申込および問い合わせ： 〒 161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16 日本聖書神学校 神学基礎講座係
☎ 03-3951-1101 FAX03-3951-3044 Email: kyomu@jbts.ac.jp

受講予定の方へのお願い

- 図書館の利用について・・・講義の空き時間や待ち時間に本校図書館を利用される方が多くいらっしゃいます。本校図書館は、すべての教会信徒の方に開放されておりますが、最初に利用登録が必要となりますので、初めてご利用される方はカウンターで予め利用登録（年間 2,000 円）をお願いいたします。
- 講義の休講について・・・講師の都合等によってやむを得ず休講になる場合があります、受講回数が増える場合もございますので、予めご了承くださいませようお願い致します。また、補講が行われる場合もあります。
- 受講者の皆さんのレターボックス・・・様々な連絡のために用います。校舎 1F の奥に用意しました。
- 多くの科目には、レポートや試験があります。ただし、単位認定はありません。

アクセス



JR 目白駅より徒歩約 10 分

2025 年度神学基礎講座開講科目・日程表

2025年度神学基礎講座日程表（前期）

講 座	曜日	時 間	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回
●礼拝学	月	18:50-20:20	4月7日	4月14日	4月21日	4月28日	5月12日	5月19日	5月26日	6月2日	6月9日	6月16日	6月23日	6月30日	7月7日	7月14日
●キリスト教教育Ⅰ	火	18:15-19:45	4月8日	4月15日	4月22日	5月13日	5月20日	5月27日	*6月3日	6月10日	6月17日	6月24日	7月1日	7月8日	7月15日	7月22日
●キリスト教史Ⅱ		19:55-21:25	4月8日	4月15日	4月22日	5月13日	5月20日	5月27日	*6月3日	6月10日	6月17日	6月24日	7月1日	7月8日	7月15日	7月22日
●旧約時代史	木	19:55-21:25	4月10日	4月17日	4月24日	5月1日	5月8日	5月15日	5月22日	5月29日	*6月5日	6月12日	6月19日	6月26日	7月3日	7月10日
●新約時代史	金	18:50-20:20	4月11日	4月18日	4月25日	5月2日	5月16日	5月23日	5月30日	6月6日	6月13日	6月20日	6月27日	7月4日	7月11日	7月18日

* 6月3日（火）・5日（木）は短縮授業（ペンテコステ立証祈禱会のため）
通常は18:15-19:45の授業 ⇒ 18:15-19:30 19:55-21:25の授業 ⇒19:35-20:50

（注）休講等により授業回数・授業日時が変更になる場合がありますのでご了承ください。

2025年度神学基礎講座日程表（通年科目）

講 座	曜日	時 間	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回
●ギリシア語	月	18:50～20:20	4月7日	4月14日	4月21日	4月28日	5月12日	5月19日	5月26日	6月2日	6月9日	6月16日	6月23日	6月30日	7月7日	7月14日
			第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回
	月	18:50～20:20	9月22日	9月29日	10月6日	10月20日	10月27日	11月10日	11月17日	12月1日	12月8日	12月15日	1月5日	1月19日	1月26日	1月26日

* ギリシア語の第28回は、20:30-22:00。

講 座	曜日	時 間	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回
●ヘブル語	金	18:50～20:20	4月11日	4月18日	4月25日	5月2日	5月16日	5月23日	5月30日	6月6日	6月13日	6月20日	6月27日	7月4日	7月11日	7月18日
			第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回
	金	18:50～20:20	9月19日	9月26日	10月3日	10月10日	10月17日	10月31日	11月7日	11月14日	11月21日	11月28日	12月5日	1月9日	1月16日	1月23日

（注）休講等により授業回数・授業日時が変更になる場合がありますのでご了承ください。

後期（9月～）開講予定科目2025年7月上旬申込受付開始（8月下旬締切）

- 新約概論火19:55-21:25
- 教会音楽水18:15-19:45
- キリスト教史Ⅰ水19:55-21:25
- キリスト教と文学木18:15-19:45
- 日本キリスト教史木18:15-19:45
- 旧約概論金18:50-20:20

ギリシア語（通年） 月曜日 18時50分～20時20分

（注）通年科目は、1科目でも受講料は2科目として扱います。

担当：

菅原裕治 教授

講義日程：前期4月7日、4月14日、4月21日、4月28日、5月12日、5月19日、5月26日、6月2日、6月9日、6月16日、6月23日、6月30日、7月7日、7月14日

後期9月22日、9月29日、10月6日、10月20日、10月27日、11月10日、11月17日、12月1日、12月8日、12月15日、1月5日、1月19日、1月26日、*1月26日（20:30-22:00）の全28回

新約聖書をギリシア語で読むための基礎的文法を学ぶ。講義終了時において、辞書などを用いてギリシア語原典を理解できるようになることを目的とする。

講義計画

- 1 ギリシア語、文字と発音、音節、アクセント、句読点
- 2 動詞の活用、直説法現在能動相（態）
- 3 名詞の変化、第1変化名詞、格と用法、名詞の変化、第2変化名詞
- 4 定冠詞、第1、2変化形容詞、形容詞の位置、形容詞と動詞の格支配
- 5 名詞の変化、第2変化の女性名詞、第1変化の男性名詞
- 6 名詞の変化、第3変化名詞、第3変化形容詞
- 7 前置詞とその用法
- 8 εἰμίの直説法現在、人称代名詞、後接辞と前接辞
- 9 指示代名詞、強意代名詞 αὐτός
- 10 現在中・受動相（態）、能動相（態）欠如動詞
- 11 本時称（制）と副時称（制）、未完了過去中・受動相（態）
- 12 並列と相関の接続詞、否定詞、否定疑問文、再帰代名詞、相互代名詞、所有形容詞
- 13 未来能動相（態）、中動相（態）未来、εἰμίの直説法未来
- 14 形容詞と福祉の比較、格の特殊用法
- 15 第1アオリスト能動相（態）、第1アオリスト中動相（態）
- 16 第2アオリスト能動相（態）、第2アオリスト中動相（態）
- 17 未完了能動相（態）、未完了中・受動相（態）
- 18 過去完了能動相（態）、過去完了中・受動相（態）
- 19 第1アオリスト受動相（態）、第2アオリスト受動相（態）
- 20 動詞の主要部分、現在分詞能動相（態）、中・受動相（態）
- 21 未来分詞能動相（態）、未来分詞中動相（態）
- 22 アオリスト分詞能動相（態）、アオリスト分詞中動相（態）
- 23 アオリスト分詞受動相（態）、未来分詞受動（態）
- 24 現在完了分詞能動相（態）、現在完了分詞中・受動相（態）
- 25 分詞の述語的用法、独立属格、母音複合動詞、流音幹動詞、特殊変化形容詞
- 26 接続法とその用法、希求法
- 27 不定詞（法）とその用法
- 28 命令法とその用法
- 29 μι動詞、数詞

教科書・参考書

【教科書】大貫 隆著、『新約聖書ギリシア語入門』、岩波書店、2004年、2,800円＋税

【参考書】土岐健治著、『新約聖書ギリシア語初歩（改定新版）』、新教出版社、1999年7月、絶版（古書で4,000円前後）

礼拝学

月曜日 18時50分～20時20分

担当：
荒瀬牧彦 教授

講義日程：4月7日、4月14日、4月21日、4月28日、5月12日、5月19日、5月26日、6月2日、6月9日、6月16日、6月23日、6月30日、7月7日、7月14日の全14回

大きな流れとしては、学校礼拝の司式オリエンテーションから始め、次に、主日礼拝の構造と動きについて基本的なことを学ぶ。その後、初期教会から現在に至るまでの礼拝の歴史を概観し、教会暦・聖書日課と sacrament について考える。

以上と並行して、神学校礼拝の一回を担当し、特別な主題のための礼拝をデザインし、リードするという実践を通した学びを行う。

講義計画

1. 参考文献の説明・課題の説明・学校礼拝の司式オリエンテーション
2. 自らの礼拝史を考える・キリスト教礼拝の特質
3. 礼拝の構造と動き（前半）
4. 礼拝の構造と動き（後半）
5. 礼拝の歴史① 旧約・新約における礼拝
6. 礼拝の歴史② 初期教会
7. 礼拝の歴史③ 古代から中世へ・学校礼拝のデザイン
8. 礼拝の歴史④ 宗教改革（ルター）
9. 礼拝の歴史⑤ 宗教改革（改革派・再洗礼派）
10. 礼拝の歴史⑥ 新しい礼拝伝統の出現（1）・学校礼拝のデザイン
11. 礼拝の歴史⑦ 新しい礼拝伝統の出現（2）・学校礼拝のデザイン
12. 教会暦と聖書日課
13. sacrament の理解
14. プロテスタント礼拝の未来・リタージカルフォーメーション目指して

教科書・参考書

【教科書】

『聖書』 ※いつでも参照できるよう手許に用意しておいてください。

『神の民の礼拝 2025 カンバーランド長老教会礼拝書』

（4月に発売予定の新刊です。教室で割引価格で販売します。）

＊今橋 朗著『礼拝を豊かに 対話と参与』（日本基督教団出版局）を開講前に読んでおいてください。前提とします。授業に持参する必要はありません。

【参考書】

○一回目に「参考文献表」を配布します。

ブックレポートの対象図書はそれに指示します。

○各回にレジュメと資料プリントを配布します。配布されたものはファイルして、毎回教室に持参してください。後で参照することがよくあるので。

キリスト教教育

火曜日 18時15分～19時45分

担当：
土肥研一 講師講義日程：4月8日、4月15日、4月22日、5月13日、5月20日、5月27日、*6月3日（18:15-19:30）、
6月10日、6月17日、6月24日、7月1日、7月8日、7月15日、7月22日の全14回

キリスト教教育とは、この世とは異なる「文化」（価値観・思考様式・心理的特性・行動様式等）を持つ「キリスト教共同体」が行う、教育的実践のことである。

この実践は、教会学校教育に限定して理解されがちだが、説教・牧会・伝道など教会の営み全般を包含するものと捉えることもできる。そう考えると、教育の対象は子どもに限らず、全世代を覆うものである。

本講義は後者の大きな視野を持ちながら、キリスト教教育の理論と実践について学ぶ。授業後半では、20世紀を代表するキリスト教霊性の指導者であるヘンリ・ナウエンの著書を共に読みつつ、「神の愛を伝える教育」について考える。

講義計画

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. イントロダクション | 7. 発達 信仰の成長とは |
| 2. キリスト教教育とは 少数者文化の継承 | 8. 解放の教育 社会の課題を共に担う |
| 3. 何を教えるのか 聖書のイメージ | 9. 解釈としての教育 人生の解釈者としての教師 |
| 4. 聖書が描く教育 W.ブルッゲマンの議論を参考に | 10. 生涯教育 特に中高年の課題を中心に |
| 5. 知識を伝える教育 受洗準備教育、カテキズム | 11. 霊的形成 |
| 6. 共同体による教育 意図的教育と無意図的教育 | 12～14. ナウエンに学ぶ |

教科書・参考書

【教科書】

後半にヘンリ・ナウエンの著作を共に読みます。下記の書を入手してください。

ヘンリ・ナウエン『愛されている者の生活 世俗社会に生きる友のために』小淵春夫訳、あめんどう、1999年

【参考書】

今橋朗「キリスト教教育」（『総説 実践神学』日本基督教団出版局、1993年所収）

ヘンリ・ナウエン『死を友として生きる』廣戸直江・土肥研一訳、日本キリスト教団出版局、2021年

酒井陽介『ヘンリ・ナウエン 傷ついても愛を信じた人』日本キリスト教団出版局、2023年

キリスト教史Ⅱ

火曜日 19時55分～21時25分

担当：
柳下明子 教授講義日程：4月8日、4月15日、4月22日、5月13日、5月20日、5月27日、*6月3日（19:35-20:50）、
6月10日、6月17日、6月24日、7月1日、7月8日、7月15日、7月22日の全14回

「プロテスタント教会」の諸教派のルーツとなる宗教改革という出来事を学ぶことは、すなわち今立っている私たちの教会の神学を学ぶことでもあります。16、17世紀を中心に、事件や神学思想を見てゆきます。

講義計画

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. イントロダクション | 9. カルヴァンの改革の展開 |
| 2. ルネッサンス | 10. ローマ・カトリックにおける改革 |
| 3. ルターの改革 1) 95カ条の提題 | 11. イングランド宗教改革 |
| 4. ルターの改革 2) 礼拝・神学 | 12. ピューリタン革命 |
| 5. ルターの改革の展開 | 13. 正統主義と敬虔主義 |
| 6. ツヴィングリのスイス宗教改革 | 14. メソディズム |
| 7. 再洗礼派 | 15. エキュメニカル運動 |
| 8. カルヴァンの改革 | |

教科書・参考書

【教科書】

フスト・ゴンサレス『キリスト教史 下巻 増補新版』新教出版社、2020年

【参考書】

適宜紹介する

旧約時代史

木曜日 19時55分～21時25分

担当：
金井美彦 講師

講義日程：4月10日、4月17日、4月24日、5月1日、5月8日、5月15日、5月22日、5月29日、*6月5日（19:35-20:50）、6月12日、6月19日、6月26日、7月3日、7月10日の全14回

旧約聖書の各文書の成立の背後には、これらの文書を書き、編集し、さらに加筆し、最終的にまとめた人々がいる。この過程を扱うのがいわゆる伝承史的研究であるが、そもそもこれら各経過の背後には、それぞれの時代背景がある。この時代背景をできるだけ正確に把握することを目的とするのが旧約時代史研究である。もちろん、旧約各文書の文学的性格の違いによって、時代史研究が難しい文書もある。例えば詩編は時代背景をおそらく意図的にぼかしているため、背景を知るのが難しい。それでも、詩編内部の文学的構成を検討すると、成立の過程はおおよそわかる。しかし、それぞれの単元の歴史的背景は漠然としている。一方、モーセ五書、ヨシュア記から列王記、それに歴代誌、エズラ・ネヘミヤ記は歴史書の体裁を取っているため、扱いやすいとみられる。しかし、これらのテキストから旧約時代史を書くと、それは近代歴史学からみた「歴史」ではなくなり、イデオロギー的イスラエル史、つまり自分たちに都合の良い歴史物語になってしまう。そうならないためには、旧約時代史の前提を成している古代オリエント史、あるいは古代レヴァント地方の考古学的資料およびその研究と対話をする必要がある。もっと言えば、旧約時代史を古代レヴァント地方の歴史の一部として、相対化することさえ必要であるかもしれない。これが、いわゆるミニマリスト（旧約各文書を歴史資料としてはほぼ使えないものとみなしてイスラエル史を叙述するグループ）の立場である。

一方、古代オリエント、古代レヴァント地方の考古学的資料もまた、膨大とは言え、数千年を描くには断片的である。しかも、ほとんどが古代王権の資料であり、政治史はある程度描けるとしても、明らかに一面的である。一方、旧約聖書の文書は、もちろん、歴史資料として用いられるものは少ないとしても、巨大なオリエントの王権による偏った文書ではなく、そうした古代王権によって支配されて見えないはずの人々の生活や信条、宗教の姿を残している点で、かえって「歴史」をより正確に理解しうる「資料」でもありとも考えられる。

この授業では、上記のような「歴史」という概念の質的差異を念頭に置きつつ、古代オリエント史、古代レヴァント地方の歴史と旧約各文書の歴史的記述とを比較検討し、旧約聖書の理解を深めたいと思う。

講義計画

- 1, モーセ五書における歴史的な事柄（1） 創世記の神話と歴史記述
 - 2, モーセ五書における歴史的な事柄（2） 出エジプトと荒れ野の旅
 - 3, いわゆる申命記的歴史記述と古代オリエントの歴史（1）
—カナンの諸民族、およびペリシテ人との関り—
 - 4, いわゆる申命記的歴史記述と古代オリエントの歴史（2）世界帝国による支配の始まり
 - 5, いわゆる申命記的歴史喜寿と古代オリエントの歴史（3）世界帝国による支配の普遍化
 - 6, 古代オリエントの斜陽化とヘレニズムの支配 イスラエルが生き延びるための道
 - 7, 古代オリエントの斜陽化とヘレニズムの支配 いわゆる「歴史」とその外部
- 以上の項目について、それぞれ複数回、学生と共に検討する。

教科書・参考書

【教科書】

山我哲雄『旧約時代史』岩波書店、2003年

【参考書】

授業中に指示する。

新約時代史

金曜日 18時50分～20時20分

担当：
山野貴彦 講師

講義日程：4月11日、4月18日、4月25日、5月2日、5月16日、5月23日、5月30日、6月6日、6月13日、6月20日、6月27日、7月4日、7月11日、7月18日の全14回

いわゆる新約時代史すなわち紀元前3世紀から紀元後2世紀のギリシャ・ローマ史およびユダヤ史を概観する。聖書内の証言に加え、考古資料や聖書外資料も適宜参照し、諸々の新約聖書神学的主題の歴史的な背景や新約聖書における伝承および文書の成立の経緯を理解する際に必須である知識の獲得を目指す。

講義計画

扱う時代史的主题の範囲は以下のようなものとなる：

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. アレクサンドロス大王とディアドコイ（後継者たち）の時代 | 6. 第一次ユダヤ戦争とエルサレム神殿の崩壊 |
| 2. マカベア戦争およびハスモン王朝時代 | 7. 神殿崩壊後の時代：ユダヤ人の宗教の再出発
および新約聖書諸文書の成立 |
| 3. 洗礼者ヨハネとナザレのイエスが生きた時代 | 8. 第二次ユダヤ戦争とエルサレムの崩壊 |
| 4. イエス・キリスト派（いわゆる原始キリスト教）の時代 | 9. 聖書正典の成立 |
| 5. パウロが生きた時代とりわけ地中海世界の情勢 | |

教科書・参考書

【教科書】

指定しない。

【参考書】

- ・山我哲雄／佐藤研『改訂版 旧約新約聖書時代史』教文館 2012年（第3版：岩波文庫版もあり）
- ・上村静『旧約聖書と新約聖書』新教出版社 2011年
- ・浅野淳博『新約聖書の時代：アイデンティティを模索するキリスト共同体』教文館 2023年
- ・M. ティリー / W. ツヴィッケル『古代イスラエル宗教史—先史時代からユダヤ教・キリスト教の成立まで』（山我哲雄訳）教文館 2020年
- ・E. シューラー『イエス・キリスト時代のユダヤ民族史』（全7巻。2025年3月現在第6巻まで刊行済）、小河陽ら（訳）教文館 2012-年〔英語版：E. Schürer, The History of the Jewish People of the Age of Jesus Christi 175 B. C. - A. D. 135). G. Vermes/F. Miller/M. Black (tr. and rev.), Edinburgh 1973-1987〕
- ・市川裕『ユダヤ教の歴史（宗教の世界史）』山川出版社 2009年
- ・杉本智俊『図説 新約聖書の考古学（ふくろうの本）』河出書房新社 2021年
- ・E. Stern(ed.), The New Encyclopedia of Archaeological Excavations in the Holy Land I-V. Jerusalem 1993 (I-IV), 2008 (V). その他適宜授業内に紹介する

ヘブル語（通年） 金曜日 18時50分～20時20分

（注）通年科目は、1科目でも受講料は2科目として扱います。

講義日程：前期 4月11日、4月18日、4月25日、5月2日、5月16日、5月23日、5月30日、6月6日、6月13日、6月20日、6月27日、7月4日、7月11日、7月18日

後期 9月19日、9月26日、10月3日、10月10日、10月17日、10月31日、11月7日、11月14日、11月21日、11月28日、12月5日、1月9日、1月16日、1月23日の全28回

担当：
飯郷友康 講師

ヘブル語の、要点を教習する。

講義計画

講義の前半で、ヘブル語の要領をつかむ。後半で、旧約聖書のさまざまな章句を読み漁る。

教科書・参考書

【教科書】

飯郷友康「『ヘブル語』入門 — あるいは『旧約原典講読』序説 —」『聖書と神学』35、2024年10月、115-144頁

【参考書】

以上の参考書は、下記 URL からダウンロード可能（なるべく高性能のプリンターで印刷して、授業に持参すると便利）。

https://researchmap.jp/igo-tomoyasu/published_papers/48256672

- ※ 申込〆切：2025 年 3 月 24 日（月）
- ※ 下記宛先まで FAX・メール・郵便でお送りください（メールの場合、本文に各事項を記していただいてもさしつかえありません）神学基礎講座ホームページの申込フォームからお申し込みいただけます。

F A X 03-3951-3044 メール kyomu@jbts.ac.jp

郵送先 161-0033 新宿区下落合 3-14-16 日本聖書神学校 神学基礎講座係

神学基礎講座 受講申込書

私は、日本聖書神学校主催の2025年度神学基礎講座の受講を申し込みます。

2025 年 月 日

名前 _____（ 歳）

現住所	〒
受洗年月	年 月
所属教会	牧師名 教会 （ ）
電 話	
携帯電話	
Eメール	（講師の都合などで休講になる場合の連絡先）
受講科目	